

要旨

目的

新老人の会の会員を対象にヘルスリテラシーと情報源・サポート資源、知識との関連性を明らかにすることを目的とした。

方法

本研究は自己記入式質問紙を用いた探索的記述研究(横断的研究)である。ヘルスリテラシーの尺度はHLS-EU-Q47(日本語版)を用い、その他必要な変数の測定項目を起こし、プレテストの結果を踏まえ質問紙を作成した。調査は「新老人の会」に所属する60歳以上の会員から無作為抽出した1,500名を対象に質問紙郵送法で実施した。分析はヘルスリテラシーの総得点、領域別得点を従属変数とし、基本属性を独立変数にし、t検定または一元配置分散分析を、また、情報源・サポート資源、健康や医療に関する知識が身についたと思うきっかけ、サポート資源から学んだ知識を独立変数とし、年齢、学歴で調整し、それぞれについて男女別に重回帰分析を行った。

結果

有効回収数は626通だった(有効回収率41.7%)。ヘルスリテラシー得点を算出するため、欠損値が20%以上の対象者90通と医療や健康の専門教育を受けている医療資格所持者76通及び不明者16通を除き、最終的に444通を分析対象者とした。結果、ヘルスリテラシーの総得点と有意な関連が認められたのは、基本属性では暮らし向き($F=6.93, p=.002$)、また、情報源については女性で活用情報源種類数($\beta=.131, p=.028$)、サポート資源については男性でかかりつけ医($\beta=.235, p=.004$)、女性で家族・親戚($\beta=.207, p=.001$)、また、健康や医療に関する知識が身についたと思うきっかけについては女性で月経、更年期障害($\beta=.140, p=.019$)、自身の健康診断結果($\beta=.187, p=.002$)、職場教育($\beta=.129, p=.030$)、妊娠・出産($\beta=.126, p=.035$)、周囲の医療資格取得($\beta=.237, p<.001$)だった。さらにサポート資源から得たヘルスリテラシーの領域別知識数と領域別得点については、男女ともに家族・親戚・友人・知人から得た学び知識数と有意な関連があり、男性は疾病予防領域($\beta=.219, p=.024$)、ヘルスプロモーション領域($\beta=.265, p=.009$)、女性はヘルスケア領域($\beta=.164, p=.016$)、疾病予防領域($\beta=.143, p=.043$)、ヘルスプロモーション領域($\beta=.208, p=.006$)だった。

結論

新老人の会の会員における包括的なヘルスリテラシーは、国内においては比較的高い水準である可能性が示唆され、基本属性では暮らし向きが関連していた。また、包括的なヘルスリテラシーに関する知識は、家族・親戚・友人・知人とのやりとりから培われ、特に女性は様々な機会を通じて知識を得ている可能性が示唆された。また、男性では相談ができ信頼できるかかりつけ医の存在が、女性では相談ができ信頼できる家族・親戚の存在が包括的なヘルスリテラシーの維持・向上に関連している可能性が示唆された。